

## 認定 NPO 法人北海道 NPO ファンド

2023 年度事業活動計画(案) 2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日

### 1. 休眠預金等活用法に関わる事業

1) 休眠預金等活用法による 2020 年度一般枠資金分配団体として、「子ども若者主体の持続可能な地域づくり事業」を実施します。総助成額はおよそ 5000 万円。2024 年 3 月までの事業。連携団体は、コープさっぽろ、北海道 NPO サポートセンターです。

2) 休眠預金等活用法による 2021 年度一般枠資金分配団体として「地方における学習・能力向上機会の拡充による選択格差の解消」事業を実施します。20 年度に引き続きこどもを対象にしますが、小中学年代に焦点を当て、両事業の相乗効果を得ることも目指しています。総助成額はおよそ 6000 万円。2025 年 3 月までの事業です。連携団体は、コープさっぽろ、北海道 NPO サポートセンターです。

3) 休眠預金等活用法による 2022 年度一般枠資金分配団体として「社会的居場所を核とした働き方と暮らし方の共生の実現」事業を実施します。障がいをもつ LGBT の方々を主たる事業対象とし、3 団体に助成します。2026 年 3 月までの事業です。連携団体は北海道 NPO サポートセンター、みなと計画です。

4) 2023 年度は、引き続き道内、また道外の NPO やコミュニティ財団と連携して、NPO 団体や中間支援団体と連携して、北海道の社会課題に取り組む資金分配団体を目指しつつ、ソーシャルビジネス分野や社会的投資、融資を組み合わせた事業の可能性を検討します。

### 2. 各基金および小林董信基金の運用

常時寄付を集めているのは 5 つの基金です。これらの基金の周知に努めます。

1. 市民活動支援基金 20 年以上 NPO に助成してきた越智基金を受け継ぎ、NPO への小額助成を行います。
2. こどものために思いをかたちにするこども基金:こども分野の NPO に助成を行うための基金です。
3. 小林董信基金:故・小林董信氏(前北海道 NPO サポートセンター事務局長)を偲び、その足跡と功績を後世に伝えるために基金を造成し、小林董信氏が実

践されていた「人を育てる」「人を応援する」ことを目的とした助成を行ないます

4. 北海道災害復興支援基金:NPO による平時・災害時の長期的な支援活動を保障することによって、北海道の持続的な災害復興を支援します。
5. ハンドくんファンド:当・北海道 NPO ファンドをご支援いただく目的の基金です。

小林董信基金については、北海道 NPO サポートセンターとプロジェクトチームを組み、基金への寄付集めと助成および採択者への伴走支援に取り組みます。

### 3. 基金報告書作成

3 年間の助成を終えた「コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金」、そして、基金残額がゼロに近づいている「越智基金」の助成報告の作成に着手します。20 年以上の歴史を持つ越智基金の社会的意義や関係者の寄稿などをまとめ、その事績を長く後世に伝えます。

### 4. まちのプロジェクト基金

22 年度未達でした、第 3 期「まちのプロジェクト基金」の実施に向けてプログラムの検討を行います。組織診断から資金調達、事業実施までを支援対象とするプログラムであり、地方で必要となるといわれている「多機関連携」を意識した支援を行います。

### 6. 北海道災害復興支援基金

昨年に引き続き災害支援の中間支援団体「北の国災害サポートチーム」との連携関係を重視します。

この基金は 2020 年までで運営を終了した「いぶり基金」の後継として位置づけられます。NPO・市民団体が平時から災害に備え非常時にはすぐに活動を始められるような態勢を整えることが目的です。20 年 2 月に活動を開始した基金の充実を図ります。この基金は、有志プロジェクトメンバーの協力により運営します。

### 7. 各種の助成申請を試みます

休眠預金助成事業の負担を勘案しながら適宜、助成申請を試みます。社会的インパクト評価、組織評価、遺贈寄付などがテーマとして考えられます。

### 8. 新たな基金の可能性を検討します

旭川など道内中核市の NPO 支援センターと連携したエリア基金造成の可能性、実施体制などの検討を行います。また、非営利活動の資金循環を促進するための基金の在り方を検討します。

## 9. 基金の普及・啓発活動

昨年度も寄付月間のアンバサダーとして、寄付文化醸成の活動を行いました。22年度以降もこうした機会があれば積極的に参加します。

北海道 NPO ファンドおよび北の NPO 基金の活動を一般に周知するため、2017年から加盟した全国コミュニティ財団協会における研修への参加を検討します。

## 10. 遺贈・寄付の相談窓口業務

NPO にたいする遺贈を考える方が増えるという予測のもと、当法人が専門家ネットワークの窓口として遺贈や寄付の相談にあたります。サイト以外の広報資料の整備やセミナー開催などを試みます。全国レガシーギフト協会を通じた情報収集を行い、また共催による研修なども検討しています。

いぞう寄付の相談窓口 <https://npoproject.hokkaido.jp/izoukifu/>

## 11. 非営利組織評価センター(JCNE)のグッドガバナンス認証取得を検討します

ベーシックガバナンスチェックを更新できたので、さらに信頼される NPO を目指してグッドガバナンス認証取得を目指します。

## 12. 組織評価、社会的インパクト評価、事業評価へのとりくみ

助成事業を行ううえで必要な取り組みと考え、NPO への評価の意義を広く周知する取り組みを続けます。SIMI や休眠預金等活用法の指定活用団体である JANPIA の研修やセミナーへの参加なども検討します。

## 12. 北海道 NPO サポートセンター、北海道 NPO バンク、NPO 推進北海道会議との連携

積極的に実施しつつ、各種調査対応、メディアへの掲載等の情報発信を通じて、個人や団体等からの基金の原資を増やす活動を行います。